

③「高い繁殖能力理解して」

今回は猫のことについてお話しします。

さて、皆さんは猫の繁殖能力についてご存知でしょうか。実はあまり知られていませんが、猫の繁殖能力はとても高いのです。

猫は大昔から穀物の食害やペストなどの伝染病を媒介するネズミの駆除のために導入されたことはよく知られています。猫は生後半年で妊娠が可能になり、1回の出産で4～6匹の子猫を産み、1年間に3回妊娠ができるので、最低でも12匹の子猫を産むことができます。先人たちは猫たちの捕獲能力以外にもネズミに負けない高い繁殖能力を持



っていることを知っていたのでしよう。しかし、今日ではその能力が裏目に出てしまっています。

というのも、当センターには、毎年2,000匹以上の猫が持ち込まれ、そのうちの約7割を子猫が占めています。持ち込まれる理由は、「飼い猫が子猫を産んだが育てられない」とか「野良猫に餌をあげたら子猫が産まれてしまった」というのがほと

んどです。そして、その人たちは必ずといっていいほどこう言います。「動物愛護センターは新しい飼い主を捜してくれるんでしょ？」とか「動物愛護センターなんだから全部面倒見てくれるんでしょ」とか。

2,000匹の猫の里親を探すことが動物愛護なのでしょいか。当センターから譲渡される猫は年間せいぜい50匹程度です。

ペットフード協会の調査報告によると、現在、国内では約960万匹の猫が飼育され、そのうち23%が屋外で飼育されています。

不幸な子猫をなくすためには、飼い主は猫の特性をよく理解し、猫に繁殖の機会を与えないため屋内飼育を徹底すること、また負の連鎖を断ち切るため「不妊・去勢手術」を必ず受けさせること、飼い主のいない猫（野良猫）に餌を与えないことが必要です。餌やりによって野良猫同士の繁殖を助長させ、結果的に野良猫が増えてしまうことになるからです。

不幸な子猫を増やさないことが本当の動物愛護ではないでしょうか。